■笠木良明　　**右翼運動家。革新右翼と呼ばれる思想的転換を満蒙に持ち込むも挫折したが，多くの人に慕われた。**
かさぎよしあき
大本教・・・1892＝　　栃木県上都賀郡足尾町で生まれる。

日清戦争始・1894＝ 2歳：

田中正造直訴1901＝ **9歳：**
きかん坊，頑固者に育ち，

日露戦争終・1905＝13歳：

韓国併合・・1910＝**18歳：**

明治天皇没・1912＝20歳：
仙台の第二高等学校から，東京帝大法科に進み，

日中友好を唱える書家・漢学者宮島大八にも師事，

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝**27歳：**卒業とともに，**_満鉄とはいえ東京にあった東亜経済調査局に就職，**
_大川周明と知り合い，強く影響を受けて，大川が北一輝らと設立した｛猶存社｝に加入し，
原敬首相暗殺1921＝29歳：

護憲三派圧勝1924＝32歳：**_｛行地社｝創立に参加。**
治安維持法・1925＝33歳：妻と娘を相次いで失い，衝撃を受ける。以来，政治活動に打ちこみ，再婚せずに独身を貫く。
共産党事件・1928＝**36歳：**在満日本人の危機感は強く，この年，張作霖爆殺事件が起こり，満洲青年連盟が結成されたのに呼応，
世界恐慌・・1929＝37歳：来日した清朝の遺臣鄭孝胥を応接したのが，中国との初めての接点であったが，その直後に**＊大連本社への転勤を命じられると，満鉄社員を中核とする｛大雄峯会｝を結成。**
満州事変・・1931＝39歳：**_満洲事変に呼応して，満洲青年連盟と｛大雄峯会｝を中心とした自治指導部の結成を主導，その精神（王道主義）を「自治指導部布告第一号」で明確に提示。**
五一五事件・1932＝40歳：**_満州国が建国されると，自治指導部は解消されて資政局となるが，満鉄を辞めて資政局入り，トップたる総務庁の駒井徳三の方針と合わず不協和音が生じ，石原莞爾らは下野して活動するのに対し，あくまでも官に残って，青年育成に努めたため，ついに衝突，資政局は廃止され，自らも罷免となった。**
国際連盟脱退1933＝41歳：**＊帰国し，｛大亜細亜建設社｝を設立，外務省情報部の機密費の支援も得て，機関誌｛大亜細亜｝を編集発行，かつての自治指導部メンバーらを指導，彼らが満洲各地で｛興亜塾｝を開くようになり，戦争の犠牲になった同志への弔いをかかさずすることによって，結束も固まって行く。**

日中戦争始・1937＝**45歳：**日中戦争が勃発すると，「忠誠なる日本青年の世界的陣容布置の急務」と題するパンフレットを配布，

日米開戦・・1941＝49歳：

敗戦・・・・1945＝53歳：
新憲法公布・1946＝**54歳：**極東国際軍事裁判に証人として出廷。

戦後は，かつての同志たちの帰国とその後の世話に尽力，

独立回復・・1951＝59歳：独立回復で，**＊政治活動を再開，大衆による愛国運動を起こそうと｛国民同志社｝を結成して代表となるが，**

55年体制始・1955＝**63歳：＊交通事故が原因で，没した。告別式には十河信二，緒方竹虎らが大物が出席している。**
満洲事変の時，｛大雄峯会｝に参加した児玉誉士夫に強いも影響を与えている。

北野剛「満蒙をめぐる人びと」，